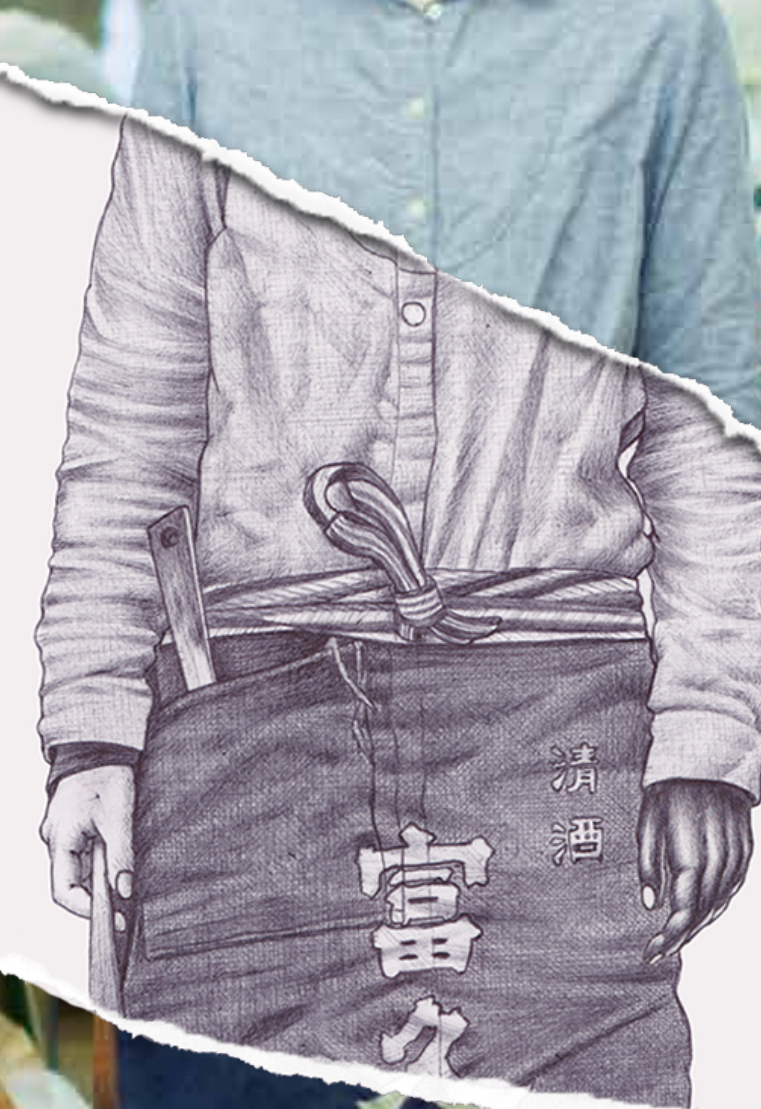
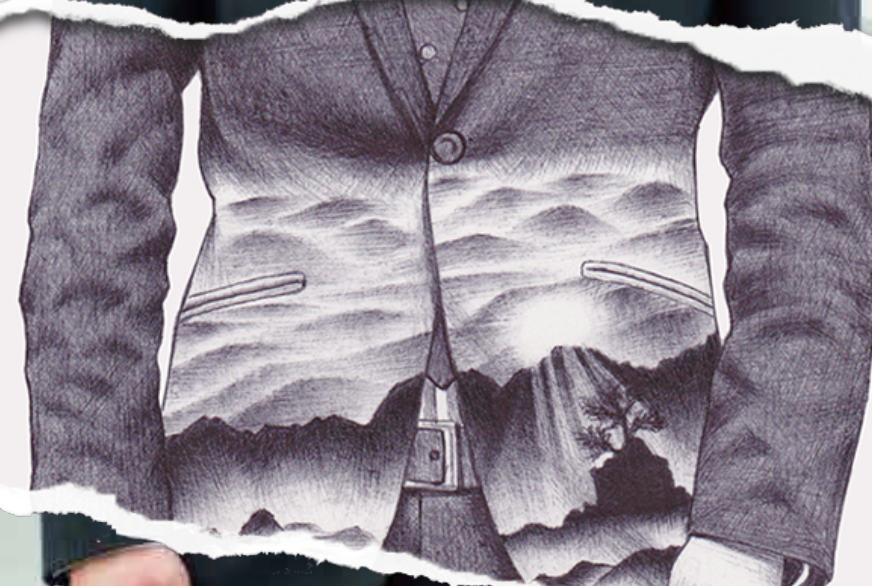




一年後、 キミがいる場所の話。



卒業生5000字インタビュー

ここに集まったのは、富山大学芸術文化学部の卒業生。
今、社会に羽ばたいた彼らは学生時代をどう振り返るか。
教職員でもなく広報担当者でもない立場から語られる“芸文”とは。

様々なステージで活躍している先輩方

小川 大輝
おがわ だいき
富山県氷見市出身
デザイン情報コース卒業
富山市役所でデザイン枠として入社。デザイナーと行政の繋ぎ役として活動。

万波 智美
まん なみ ともみ
岡山県倉敷市出身
文化マネジメントコース卒業
石川県金沢市の建築事務所で社長付としてプロジェクトのマネジメントを行う。

宮崎 凌
みやざき りょう
富山県高岡市出身
デザイン工芸コース卒業
地元である高岡にて鋳物の原型を作製する職場で働く傍ら、自らの作品を製作し県内外にて発表している。

新谷 仁美
しんたに ひとみ
広島県広島市出身
デザイン工芸コース卒業
関西の工房で漆工芸品の修理を学んでいる。芸文ギャラリーでのアルバイトをきっかけに外部との交流も積極的にしている。

聞き手は、現役芸文生

樋口 京太郎
ひくちやうたろう
岐阜県関市出身
デザイン工芸コース卒業
造形建築科学コースに入。デザインに興味を持ち、転コースを行いグラフィックやマネジメントなどを学んでいる。

平野 暉
ひらの ひかる
富山県黒部市出身
デザイン工芸コース卒業
広い視野を持ってデザインを学んでいる。芸文ギャラリーでのアルバイトをきっかけに外部との交流も積極的にしている。

あの頃みつけた「きっかけ」

芸文生 そんな芸文を卒業されて社会で活躍されている先輩方ですが、高校3年生の頃はどんなことを考えながら生活していたんですか？

万波 私は高校生のときに、大学を理系と文系で分けて選ぶことにとても違和感がありました。理系と文系の境目を繋ぐ専門性を持つ人と人との間を繋ぐ仕事したいと先生に相談していたらこの大学を薦められ決めました。何となく、社会に出たらそういう仕事はあるんだと思っていただけ、大学の間にいろいろな社会人と出会って、やりたい職業を決めたいいなと思っていました。

小川 高3の頃はバイトして車買って(笑)というようなことも考えてたけど、自由な時間が高校の時よりは確実に多くなると思っていたので、好きなことをいえるりたいなと考えていました。実際、大学生になって勉強に関係はしてないけれど、バスをチャーターして数十人で行くスキーツアーも企画しましたよ。今思うと、その時から観光に興味があったのかと思います。でも、お金の計算だったり、旅行について詳しく人に話を聞きたいという思いは高校生の時からありました。あとは、当時は建築志望でしたし、一級建築士の資格が取れたら良いなと思って、芸文系の学校を志望している人は周りに居なかったです。

今に繋がっている学生時代の経験

芸文生 本日は、お集り頂きありがとうございます。みなさんの「今」に繋がっている、学生生活の中で刺激を受けたことを教えてください。

新谷 私は、他の大学でも漆を学ぶことは出来るのですが、どこよりも漆工芸をしっかりと学べる芸文(富山大学芸術文化学部の略)に決めました。実は、この先生に漆を教わりたい！と選んだ部分もあって、その先生に出会ってなかったら今も漆の仕事を続けてなかったと思います。先生を追いかけて広島県からこの芸文に来たんです。

万波 私も新谷さんと同じで、大学で恩師と思える先生に出会えたことがなによりも大きかったです。その先生のおかげで、今の仕事にもつながる魅力的な仕事現場、クリエイティブを生み出す世界を数多く見ることが出来ました。

小川 僕は、もともと建築(造形建築科学コースの略)志望だったんですが第一志望ではなく第二志望のデ情(デザイン情報コースの略)に受かりました。そこで、半年間デ情で勉強してみても興味は湧かなかったら転コース(志望した生徒が学期末に試験を行い、違うコースへの変更を行える制度)しようかなって思っていました。ですが、半年間やっていくなかでグラフィックデザインや、マネジメントなどを勉強し、デ情からつながる社会との深い仕事の魅力を見つけた気がしました。また、先生の紹介で市役所の方と一緒に仕事をさせてもらえる機会があり、広報紙などを制作することに関わることが出来て、行政組織としてのデザインに興味を持ちましたね。

宮崎 僕は、もともと美術の分野に対する関心がなく、単に高校時代に没頭して



宮崎 僕も、普通科だったから学力メイ

芸文5コースの性格

芸文生 在学中は、さまざまなコースの人と交流を持っていたようですが、コースによって雰囲気の違いがありますよね。どのようなものがありましたか？



小川 建築は、入学してすぐにグループワークがあるから結束しているよね。先生との繋がりも強くて。
宮崎 確かに、関係がしっかりしているよね。先輩後輩という縦の社会があって卒業制作を手伝うことがあったり。
新谷 デ工は、専攻する分野ごとに教室があって、そこで先輩も後輩も製作をしているから、団結力がやたら高かったり、みんなで教え合ったりしているよ。

▲宮崎さん、高校時代の作品。

いたバンド活動で、ポスターや名刺、CDジャケットなどを制作した経験が良かったという理由のみでこの大学を受験しました。でも、学校で何か作ったりする授業を通して、手を動かす仕事も楽しいなと思い始めて、デ工(デザイン工芸コースの略)や造形(造形芸術コースの略)の授業も受けていましたね。そのうちに、デ工に興味を持って転コースしましたけど、デザインも好きだったし出来るようになって損は無いなと思っていたのでデ情の授業と両立していました。

コースを横断して学べたこと

芸文生 僕は、国公立大学は少しお堅いという勝手なイメージがあったのですが、実際に芸文に入学した時、他のコースの授業が取れるような自由に学べる制度があったて驚きました。みなさんも学生生活のなかでこういった経験があったら教えてください。

万波 国公立大学では珍しく、絵を描いている人からマネジメントを勉強している人まで、幅広いジャンルの人がひとつのキャンパス内で生活しています。コースを横断できるのもそうだけど、そこの共存共栄や他の人からの影響を受けて自分の目指したい道を見つけていく人も多いです。自分の個性をそれぞれの表現で社会にアピールできるようになる大学だと思っています。

宮崎 入試の内容で言うと、デッサン等の絵を描いてきていない普通科の人も受験できることが自分の中では大きかったですね。美術に触れてこなかったからこそ生まれる視点もあると思うので、美術に浸ってきた人と交わることで、お互い良い刺激になるんじゃないかな？それに、転コースをしなくても、自由に他のコー

工芸系の作業部屋の風景▶

スの授業を取れるのでやれることの幅が広がるしね。だから、コース間での行き来もしやすいし、コースに壁が無いから相談とかをよくしたよ。

新谷 いるんなコースを横断できてヨコの繋がりが多いから、だいたいみんなが何処で何をしているかというのが、分かれますよね。まあ、校舎自体の狭さもあると思うけど(笑)。

小川 だから、課外活動でチームを作る時に、いるんなコースの人が集まるよね。

実際に企画を立ち上げる時に、例えばデ情の人は展示のポスターやDMの制作を、建築の人は展示台を作ることを任せることが出来るから、やるうと思ったら何でも学内で出来たのが面白かったね。

万波 社会に出てもキーマンとして必要とされるような人が育っていく環境が出来ているなと思いました。宮崎さんは、自分で企画とか展覧会とかをたくさんされてますよね？

宮崎 僕が、企画したものは結構ありですね。例えば、芸文の大学院生の絵の展示を目的とした企画もしましたし、バンドでのライブイベントの企画などもしました。僕は、自分で出来る範囲はやるうとしていましたし、作品制作の発表をしていくときに、自分がアピールしたい所を上手く伝える為にも、デ情の授業を取って良かったと思うこともたくさんありますよ。

「高岡」の持つまちの魅力と刺激
芸文生 富山県高岡市にある大学ですが、

たからこそオープンにモノを作ることに対する思いとか、乗り越えるべき課題や本音を率直に聞けることは少ないと思います。みんなで学んでいくなかで作り手の思いやこだわり、悩みなどを知ることが出来るは、今でも「モノづくり」の現場に携わる上でも活かされているのではないかと思います。

宮崎 僕も、広く学べることが、自分の性格に合っていたと思います。新谷 自分がやりたいことを表現できる専門的な設備が整ってましたね。それと自分たちがしていることは全く違うジャンルを勉強している人たちがどう動いていて、何を考えているのかを身近で見ることが出来るから、いろいろな世界に触れる事が出来ました。

小川 基礎教養にプラスして実践もふまえて学べたことが良かったですね。座学だけで終わっていたら、いざなり社会に出た時にどうしているのか分からなかったと思います。当然社会の中では実践あり

きの仕事にしか就かないと思うので、展示の企画、コンペの出品、企業連携での活動といった経験が大きな財産として今も活かしています。

芸文生 芸文のさまざまな制度や各コース間の距離、芸文で学ぶ4年間の中で出会うさまざまな「モノ」や「コト」から刺激を貰い、これからの社会に必要な人に成長していけるんですね。今日、みなさんがお話してくださっているときのいきいきとした表情がとても印象的でした。みなさんが芸文で過ごした時間はきっとかけがえのないものだったのだと思います。今日はみなさんどうもありがとうございました。

芸文ギャラリー
〒933-0029
富山県 高岡市 御旅屋町 90 番地 1KM ビル 1F
TEL 0766-25-6078
E-MAIL : info@geibungallery.jp
geibungallery
芸文ギャラリーは富山大学芸術文化学部が運営するギャラリーです。学生の授業成果発表や制作活動の発表の場であり、高岡市に存在する様々な文化資源を有効に発信することを目的としています。

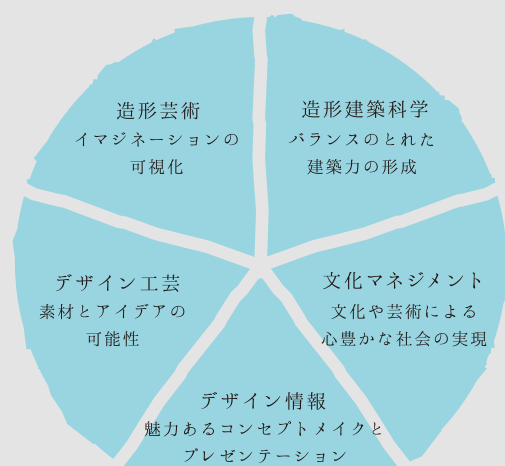
富山大学芸術文化学部 (高岡キャンパス)
〒933-8588
富山県高岡市二上町 180 番地
TEL : 0766-25-9111
E-MAIL : info@takaka-nc.ac.jp



発行：富山大学芸術文化学部
編集：樋口京太郎
平野暉

この印刷物に使用されている紙は「紙」から「紙」へのリサイクルが可能です。

【解説!! 芸文5つのコース】



芸 術文化学部は5つのコースから成っています。学年が上がっていくにつれて、コースごとに専門性の高い授業が開講され、各々の専攻に分かれていきます。また、対談の中にもあったように、コース間の学生の交流も盛んで、色々な共同製作が行われたり、プロジェクトチームが結成されたりして、授業外での活動も盛り上がりしています。

芸文のカリキュラムの特徴として、興味のある授業がコースの枠を超えて履修でき、自分に必要なスキルアップやモノゴトを考えるトレーニングを補えます。このことを芸文では「融合教育」と呼んでいて、必修科目を極力少なくし、学生の科目の選択範囲を広げることで、より柔軟な学習を行えるような仕組みづくりがされているのです。